

2010年9月14日（火）

於 ザ・プリンス パークタワー東京

2010年9月民主党臨時党大会 （代表選挙集会）

14時00分開会

開会のあいさつ

○奥村展三党大会実行委員会事務局長 皆さん、こんにちは。（拍手）ご苦労さまでございます。党大会実行委員会事務局長の奥村典三でございます。衆参の国会議員の先生方にご連絡をいたします。もう既に受け付けを済ませていただいていると思いますが、まだ受け付けをされていない方は速やかに受け付けをしていただきますようお願いを申し上げます。

議 長 選 出

○奥村大会実行委員会事務局長 まず、党大会の議長の選出をさせていただきたいと思います。大変僭越でございますが、大会実行委員会におきまして、今回、高木義明衆議院議員を議長にご推挙申し上げたいと思っておりますが、ご了承いただけるでしょうか。

〔 拍 手 〕

○奥村大会実行委員会事務局長 ありがとうございます。では、高木義明衆議院議員、議長席にご登壇いただきたいと思っております。（拍手）

それでは、この後、議事進行は高木議長のもとでよろしく願いいたします。ありがとうございました。（拍手）

○高木義明議長 議長に選出をいただきました高木義明でございます。

この臨時党大会は、ご案内のとおり党規約に定める代表の任期満了に伴う代表選出集会でございます。極めて重要な大会です。今さら私が申すまでもありませんが、内外ともに難問山積です。私たちは新たな使命と責任を自覚して、この大会が厳粛な中にも希望の大会となりますように、皆様方の議事運営に対してのご協力をお願い申し上げます。ごあいさつにかえたいと思っております。よろしく願いいたします。（拍手）

大会実行委員長・中央代表選管委員長報告

○高木議長 まず、大会実行委員会、そして中央代表選挙管理委員会から報告を受けます。代表選出のための臨時党大会においては、両委員会の委員長は兼務されておられます。

では、小平忠正委員長、お願いいたします。

○小平忠正中央代表選挙管理委員長（大会実行委員長） 今、議長からお話がありましたように、今次のわが党の代表選挙は、代表を選ぶのみならず、次期の総理大臣を決める大事な選挙でもあり、あわせて民主党の党勢拡大に大いにアピールする大事な大会でございます。ぜひ皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

あわせて、告示以来きょうまで、主宰であります中央選挙管理委員会に大変なご支援・ご協力をいただきましたことを心から感謝申し上げまして、ご報告に入らせていただきます。

まず最初に、大会実行委員長としてのご報告がございます。

既にごらんのとおり大多数の代議員は受け付けを済ませ参集されておりますが、代議員の過半数が出席しておりますので、本大会の成立要件が満たされていることをまずご報告申し上げます。（拍手）

次に、本大会の運営・進行に関しましては、常任委員会の決定によって大会実行委員会がその任務に当たります。大会実行委員会としては、本大会はお手元の次第のとおりに進めていきたいと考えております。よろしくお願いいたします。

続いて、中央代表選挙管理委員長としてご報告をいたします。

最終の党员・サポーター有権者数は、既にご報告をしているとおり、34万2,493名であります。地方自治体議員党员有権者は2,382名、国会議員有権者は411名であります。

登録をいただきましたサポーターの皆様、党员、地方自治体議員の皆様に、民主党そして中央選挙管理委員会を代表して、この際深く感謝を申し上げたいと思います。

また党営選挙運動として、両代表候補者による共同記者会見と全国3カ所での立会演説会を開催させていただきました。立会演説会はすべての会場でいずれも盛況のうちに開催され、多くの国民の皆さんに代表候補者の立会演説会をお聞きいただき、激励をいただきました。参加いただいた皆様にあらためて御礼を申し上げたいと思います。

そして代表候補者各陣営の皆様のご協力をおもひまして、無事に代表選挙運動を進めてまいりまして、いよいよきょうが最終段階でございます。重ねてご協力に感謝を申し上げたいと思います。

民主党代表選挙は、国民の皆さん、党员・サポーターの皆さん、そして報道機関をはじめ多くの方にご協力をいただき本日を迎えております。重ねて心から感謝を申し上げます次第でございます。

さらに、有権者登録、立会演説会の運営など、地方選管の皆様には大変なご苦勞をいただき、本日も早朝から郵便投票の予備開票作業の現場を確認していただきました。おかげさまで公平・公正な民主党の代表選挙を実施することができました。各地域で代表選挙を支えて懸命な努力をいただきました地方選管、特別代議員の皆様にも心から感謝申し上げます。

以上を申し上げましてご報告にかえさせていただきます。

○高木議長 報告は以上ですが、ただいまの大会実行委員長・中央選管委員長のご報告を承認したいと存じますが、拍手でご承認をお願いいたします。

[拍 手]

○高木議長 承認されました。ありがとうございました。

代表選挙候補者決意表明

○高木議長 それでは、これから代表選挙集会となりますので、議事の運営を中央代表選挙管理委員会にゆだねます。

○小平中央選管委員長 それでは、いよいよ代表選挙に入ります。これからの進行は中央選管が行いますので、よろしくお願い申し上げます。

まず、選挙戦最後の決意表明をお二人からいただくこととなりますが、その進行を大石中央選管委員が行いますので、よろしくお願いいたします。それでは大石さん、どうぞ。

○大石尚子中央選管委員 中央選管委員の大石尚子でございます。

まず、代表候補者に今回の選挙最後の決意表明を行っていただきます。小沢一郎候補、菅直人候補、ご両人どうぞご登壇くださいましてご着席くださいますよう、お願いいたします。

[拍手の中、両候補者登壇]

○大石中央選管委員 では、これからお一人15分以内で、今回の最終スピーチをしていただきます。順番は届け出順といたしますので、最初に小沢一郎候補、お願いいたします。(拍手)

○小沢一郎候補者 お集まりの皆様、そして国民の皆様、小沢一郎でございます。皆様には今回の代表選挙の期間中、菅総理と私の主張をお聞きいただき、また激励していただきました。ここに、まずもって心から御礼申し上げます。

また、昨年来、私自身にかかわることで、同志の皆様をはじめ国民の皆様には大変ご心配とご

迷惑をおかけいたしましたことを、この機会に心からおわび申し上げます。

さて、今回の立候補に当たっては、今日の危機的な政治・経済事情の中で、はたして自分にその資質があるだろうか、政治の最高責任者として「国民の生活を守る」というその責任を果たすことができるだろうか、本当に悩み、自問自答いたしました。

それにもかかわらず立候補を決意したのは、「今、政治を変えなければもう間に合わない」という私の切実な思いを、正々堂々世に問いかけたかったからであります。

思い起こせば、私は27歳で衆議院議員に初めて立候補した際、選挙公報にこうつづりました。「このままでは日本の行く末は暗たんたるものになる。こうした弊害をなくすため、まず官僚政治を打破し、政策決定を政治家の手に取り戻さなければならない」と。意思なき政治の行き着く先には国の滅亡しかありません。日本は、敗戦を経ても本質は変わっていないのではないかと。若かりしころの感じたその思いは、初当選以来、今なお変わっておりません。

今日、わが国はデフレによる経済の収縮、少子・高齢化の既存の社会制度のギャップによる不安など、経済も社会も危機的な状況に陥っております。

世界で最も層が厚かった中間所得層が解体され、ごく少数の富裕層と数多くの低所得層への分化が急速に進んでおります。日本が誇った社会保障制度も崩れつつある中、2年後には団塊の世代が年金受給者となる日を迎えます。

今、日本は、最も大事にされなければならないお年寄りがいなくなっても誰も気づかず、また、就職できない多くの若者が絶望感にさいなまれ、若い親が育児を放棄しわが子を虐待する。もはや高度成長がいろいろな問題を覆い隠してくれた時期はとうに過ぎ去って、社会の仕組みそのものが壊れています。そしてまた、日本人の精神風土も荒廃し始めていると思います。

今、ここで政治を見直し、行政を見直し、国のあり方を見直さなければ、もう日本を立て直すことができないのではないかと思います。多くの国民の皆さんも同じように感じていたのだと思います。昨年、我々民主党に一筋の思いを託し、政権交代を実現させていただきました。しかし、もう1年が過ぎ、残された任期はあと3年であります。

私たちは今、直ちにこの3年間を国の「集中治療期間」と位置づけ、徹底した改革を断行し、実行していかなければなりません。しかし、その改革は明治維新以来140年続く官僚主導の政治を、根っこから国民主導、政治主導に変えなければとてもなし遂げられるものではありません。私の頭の中を占めているのはその思いなのであります。

しかし、私は官僚無用論を言っているわけではありません。日本の官僚機構は世界に冠たる人材の集まっているところであると考えております。問題は、政治家がその官僚をスタッフとして使いこなし、政治家が自分の責任で政策の決定と執行の責任を負えるかどうかということ

であります。

私は40代でたまたま国務大臣、自民党幹事長に就任するという機会があり、国家はどう運営されているのか、その実態を権力の中核でつぶさに見続けてまいりました。そこで見た官僚主導の例えば予算づくりでは、各省のシェアが十年一日のごとくほとんど変わることがありませんでした。官僚組織というのはそういうものであります。

その中で私は、自民党の中にいながらこの改革は無理であることを骨身にしみてわかりました。だからこそ、政権与党である自民党を飛び出して、真にしがらみのない政党をつくり、政権をかえるしかないという決意をもってこの17年間、政治活動を続けてまいりました。

あらためて申し上げます。昨年、政権交代が実現したのは「こんな日本を何とか変えてくれ」という国民の悲痛なまでの叫びからだっただけであります。この声にこたえようと、菅総理大臣をはじめ閣僚の皆さんたちが一生懸命に取り組んでおられることを否定するものではありません。

しかし、政治と行政のむだを徹底的に省き、そこから絞り出した財源を国民の生活に返すという去年の衆院選挙マニフェストの理念は、だんだん隅に追いやられつつあるのではないのでしょうか。実際に来年度の予算編成は、概算要求で一律10%カット。これでは、これまでの自民党中心の政権と変わりません。財政規律を重視することは大事なことでありますけれども、要は、官僚の抵抗でむだを削減できず、結局マニフェストを転換して国民に負担をお願いするだけのことではないのでしょうか。これでは本当の意味で国民の生活は変わりません。

私には夢があります。役所が企画した、まるで金太郎あめのようなまちではなく、地域の特色に合ったまちづくりの中で、お年寄りも小さな子どもたちも近所の人もお互いがきずなで結ばれて助け合う社会。青空や広い海、野山に囲まれた田園と、大勢の人たちが集う都市が調和を保ち、どこでも一家だんらんの姿が見られる日本。その一方で、個人個人がみずからの意見を持ち、諸外国とも堂々と渡り合う自立した国家・日本。そのような日本につくり直したいというのが、私の夢であります。

日本人は千年以上前から共生の知恵として「和」の文化を築きました。我々には共生の理念と政策を世界に発信できる能力と資格が十分にあります。誰にもチャンスとぬくもりがある、豊かな日本をつくるために、自立した国民から選ばれた自立した政治家が、みずからの見識とみずからの責任で政策を決定し、実行に移さなければなりません。

そして霞が関に集中している権限と財源を地方に解き放ち、国民の手に取り戻さなければなりません。そのため、国のひも付き補助金を順次すべて地方への一括交付金に改めます。これにより、地方では自主的なまちづくりやインフラ整備が可能になります。国・地方を通じた大

きな節約効果と、そして地域経済の活性化が期待できます。また地域での雇用も生み出され、若者がふるさとに帰り、仕事につくこともできるようになります。

また私は、国民健康保険、介護、生活保護などに対する補助金、15兆円も社会保障関係費として一括地方に交付します。これにより各地方の実情に合わせて、また地方の知恵を活かして、より効率的な福祉行政が行える仕組みに改めます。我々に期待されているのは、いびつになってしまったこの国のかたちと日本人の生活を、もう一度よみがえらせる大改革なのであります。

国民の皆さんにご負担をお願いするのは、ここにいる皆さんがありとあらゆる知恵を絞って、できることすべてに取り組んでからでいいはずであります。そしてそれが、今年の総選挙での民主党の国民との約束ではなかったでしょうか。

政府・与党の政策の一元化のもと、改革を実行するのが民主党です。政府が作成した法案に後から与党議員が意見を言う、自民党と同じような事前審査の仕組みではありません。私は政府と与党の議員、誰もが対等に話し合っ、政策を一からつくり上げる、全員野球の態勢を積極的に進めたいと考えております。

また外交政策においては、日米関係はわが国にとり最も重要な二国間関係であると思います。日中、日韓関係は、日米関係に次いで重要な二国間関係であり、長い歴史を踏まえ、今後、政治、経済、文化とあらゆる分野で協力関係を深めていかなければなりません。

特に拉致問題についてはみずから対策本部長として全力で取り組みます。国際関係はまず市民の心の交流こそが必要であるとの認識のもと、実際に私は長年にわたり草の根交流を続けております。さらには日中韓3カ国の協力のもとで、環太平洋諸国も含む東アジア共同体を推進したいと考えております。

また農業・漁業の戸別所得補償制度の充実を前提として、EPA、FTAをはじめ広域的な経済連携も積極的に推進いたします。

景気対策とデフレ克服にも最優先で取り組まなければなりません。日銀法改正などの制度改革やインフレターゲット政策も視野に入れるなど、金融政策と財政政策の両面からあらゆる手段を尽くします。

また、人と人との新たなきずなづくりにも取り組みます。民主党として「新しい公共」の考えを積極的に取り入れ、NGOやNPOをはじめ、ボランティアや企業の社会貢献活動を積極支援するとともに、政府の持つ情報もできる限り開示いたします。

衆議院の解散・総選挙はこうした改革に与えられた任期を費やして、その結果を出してからのことでもあります。

官僚支配の140年のうち40年間、私は衆院議員として闘い抜いてきました。そしてようやく

官僚機構と対峙できる政権の誕生にかかわることができました。我々は「国民の生活が第一。」の政治の幕あけにやっときぎつけたのであります。

官僚依存の政治に逆戻りさせるわけにはいきません。それはとりもなおさず、政治の歴史を20世紀に後戻りさせることになるからであります。私は代表となっても、できないことはできないと正直に言うつもりです。しかし、約束したことは必ず守ります。

こう断言できるのは、官僚の壁を突破して「国民の生活が第一。」の政治を実行するのは最後には政治家の志であり、改革のきずなで結ばれている皆さんとなら長い時代の壁を突破できると信じるからであります。そして私自身は、民主党の代表、すなわち国の最終責任者としてすべての責任をとる覚悟があります。

今回の選挙の結果は私にはわかりません。皆さんにこうして訴えるのも、私にとっては最後の機会になるかもしれません。したがって、最後にもう一つつけ加えさせてください。

明治維新の偉業を達成するまでに多くの志を持った人たちの命が失われました。また、わが民主党においても、昨年の政権交代を見ることなく志半ばで亡くなった同志もおります。このことに思いをはせるとき、私はみずからの政治生命の総決算として最後のご奉公をする決意であります。

そして同志の皆さんとともに、日本を「官僚の国」から「国民の国」へと立て直し、次の世代にたいまつを引き継ぎたいと思います。

そのために私は政治生命はおろか、みずからの一命をかけて全力で頑張る決意であります。皆様のご支持・ご理解をお願いいたしまして、私のごあいさつといたします。ありがとうございました。（拍手）

○大石中央選管委員 小沢候補、ありがとうございました。

それでは、次に菅直人候補、お願いいたします。

○菅 直人候補 菅直人でございます。14日間の代表選の最後のお訴えをするその前に、まず皆さんに心からお礼を申し上げたいと思います。選挙前、「円高などの経済情勢の厳しい中、代表選は避けるべきだ」という声もありました。しかし、私は結果的には、この選挙戦やってよかったと思っております。この選挙戦を通じて、日ごろ話し合う機会が持てなかった若い仲間の皆さんをはじめ、多くの仲間と真剣に向き合うことができました。そして、これまでの社会経験や地元の人々の意見に裏付けられた真剣な政策提言をたくさんいただくことができました。国民に選ばれた国会議員が、国民の声を政治に反映させる、このことこそが議会制民主主義の原点だと、あらためて確信いたしました。すべての皆さんに心から感謝するとともに、皆さんの思いにこたえるべき政権交代の原点、民主党の原点に立ち返りながら、民主党代表とし

て、そして内閣総理大臣としての重責を引き続き果たさせていただきたいと思います。皆さんからいただいた叱咤激励、あるいは叱責や失望の言葉も、その思いを原動力にして、私菅直人は、日本のために、日本国民のため、命をかけて邁進することを、まず冒頭、皆さんにかたくお約束を申し上げます。

この代表選に当たり、民主党の原点は何か、そう自問自答いたしました。そのとき多くの顔が頭に浮かびました。

事業仕分けで注目されるかなり前から、特殊法人や特別会計を徹底的に調査し、恐れることなくその闇と闘い、道半ばにして暴漢に襲われ命を落とした石井紘基さん。そしてもう一人、みずから「がん」と闘いながら、がん対策基本法と自殺対策基本法の必要性について徹底的に議論し、自身の命を削りながら他人の命を守る法律の制定に全力を尽くされた山本孝史さん。この二人に共通することは、誰にも指図されず、誰にも依存せず、自立し、その志で世の中の不条理と闘い続けたことです。私は、これこそが民主党の原点だと思います。そして彼ら以外にも、政権交代を目にすることなくこの世を去っていった仲間のことを思うと、この民主党の原点とも言うべき「世の不条理に立ち向かう精神」を忘れてはならないと思います。

私が30年ほど前、新人議員として丸山ワクチンの問題に取り組んだのは、命にかかわることが厚生省と製薬メーカーとのなれ合い構造によって扱われていたことへの憤りがきっかけでした。その後、土地問題に取り組んだのも、普通のサラリーマンには到底手が届かない高い土地価格への疑問でした。薬害エイズも、そして自民党一党独裁への挑戦も、一部の者のために多くの人が不利益を受けることは決して許されない、という強い思いが私の原動力でした。その思いを抱き、チームで徹底的に調査し、議論し、打ち破っていく、このような闘いを続けてきたのが私の30年間の政治活動でありました。

この場におられるすべての皆さんも、社会のあり方に対して、このままではいけない、変えなければならない、そのような強い思いを胸に政治家になられたのだと思います。皆さん、先輩たちが地道に続けてきた闘いを正面から引き継ぎ、不幸に泣く人々を一人でも少なくするために、そして多くの国民の夢を実現するために、これからもしっかりとチームを組んで闘い抜こうではありませんか。

もう一つ、民主党の原点とは、すべての国民が参加できる参加型民主主義であり、これを支える自由闊達な議論だと確信をいたしております。民主党結成から10年余り、私たちは文字どおり全員参加の議論で政権交代を実現しました。時には「青くさい」とやゆされながらも、国民の声を聞き、開かれた議論を繰り返し、政策の力を深めてきました。こうした真摯な姿勢が認められ、政権交代は実現したのです。全員参加による党内の開かれた議論は、政治主導の

確立のためにも不可欠です。昨年、事務次官会議を廃止し、政務三役中心の行政へ大転換いたしました。政務三役の皆さんはこの1年、大変な努力で官僚依存からの脱却を進めてこられました。しかし、どんなに努力しても、各省5人程度の政務三役だけではすべての政策を政治主導で実現することは困難です。政治主導をさらに進めるために、私は政策調査会を復活させました。政務三役だけでは集め切れない国民の声を、部門会議を通じてしっかりと内閣に反映させる。また多様な政策テーマについて、役所の中だけで検討せず、数多くの特命チームをつくり、それぞれの議員が持つ専門分野、得意分野を活かして立案・実行していくことこそが本当の政治主導の姿だと考えます。

私は皆さんの力と可能性を信じます。皆さんは多くの経験を積まれ、それぞれの背景と得意分野をお持ちになっています。わが党の中には会社員から経営者まで、そして公務員、知事、市町村長経験者、地方議会、国内外の議会スタッフ、議員秘書、政党職員、労働組合、シンクタンク、金融機関、弁護士、裁判官、検事、公認会計士、税理士、フィナンシャルプランナー、社労士、司法書士、行政書士、気象予報士、ジャーナリスト、アナウンサー、ツアーコンダクター、派遣社員、神主、僧侶、牧師、医師、歯科医師、医療・介護関係者、看護師、薬剤師、団体職員、学者・研究者、学校・塾の経営者、学校・幼稚園の先生、保育士、俳優、スポーツ選手、農業、林業、牧場経営、植木職人、自衛官、NPO・NGO、国際機関、薬害被害者など、本当に多種多様な背景と経験を持つ方が集まっておられます。この多種多様な議員の集まりこそが、民主党の強みであり財産であると私は自負をいたしております。一人ひとりの経験と問題意識が重要です。皆さんの行動が、日本じゅうで苦しんでいる方々を助ける大きな原動力となります。皆さんの行動が、日本じゅうで輝きながら頑張っている方々を応援する大きな力となります。皆さんが抱える一つ一つの問題意識の集合体が、日本が抱える問題のすべてになると私は考えています。

政治主導は一人でできるものではありません。100人弱の政務三役で政治主導を進めるのではなく、412名の民主党議員全員で政治主導を実現しなければなりません。いわば「412人内閣」をつくり上げたいと思います。その412人による全員参加の内閣が本当の政治主導を実現すると私は信じています。

今、日本には多くの問題が山積しています。その中で最も緊急かつ強力で解決を図らなければならないのは、経済を立て直すこと、そして雇用の安心を確立することです。雇用を失うことは収入を失うにとどまりません。「居場所と出番」、つまり社会とのつながりを失うことは孤立を招き、みずからの存在意義を見失って、希望までもが奪われていきます。

20年に及ぶデフレから脱却し、強い経済をつくり上げ、雇用を立て直す、そのために新成

長戦略を策定しました。新成長戦略は計画の段階ではなく、もはや実行の段階です。七つの戦略分野と21の国家戦略プロジェクトで強力にこれを推進します。特に21のプロジェクトについては、特命チームを多数設け、党内各議員の皆さんにもそれぞれの専門分野を活かして参加をいただき、民主党の総力を挙げて実現する態勢をつくってまいります。

「今、日本を変えるために何が一番必要か」と問われれば、政策だ、いやいや政治力だ、とさまざまな意見があるでしょう。しかし、私はそれ以上に大切なものがあると思います。それは国民の信頼です。「信頼ある民主党の主張ならば、厳しい提案であっても理解できる」「この党が言うなら、信用して一緒にやろうじゃないか」、国民の皆さんとの間でそのような思いが共有できて初めて、今の行き詰まりを突破する道が開けると私は信じています。

小沢さんは、「僕には夢がある」とおっしゃいました。私にも夢があります。35年前、私の政治人生は自民党にかわり得る政権担当可能な政党をつくりたい、そのような夢を持ってスタートしました。政権交代といっても、岩盤のような政・官・業のトライアングルの中で本当に実現できるのだろうか、事あるごとに自問自答し、何度絶望的な気持ちになったことでしょうか。

しかし、昨年、私たちは多くの国民の皆さんの力で政権交代を実現することができました。だからこそ、マニフェストで国民にお約束したことを最大限実現し、目の前の経済や雇用問題に積極的に立ち向かう。未来の設計図を示し、実現への道筋をつける。成長戦略をはじめメニューはでき上がっています。いよいよ本格稼働し、国民の期待にこたえなければなりません。

私には夢があります。20年に及ぶ閉塞状況を打ち破り、日本の「国のかたち」を指し示し、元気な日本を復活させる。そしてその元気な日本を次の世代に引き継いでいきたい。私自身はボロボロになって倒れようとも、その先頭に立って闘い抜き、志をともにする次の世代にしっかりとバトンを渡していきたい。それが35年前に描いた夢に続く、私の新しい、そして最後の夢です。

何としてもやり抜く決意です。どうぞ皆さん、よろしくお願いします。一緒に闘いましょう。ありがとうございました。（拍手）

○大石中央選管委員 菅候補、ありがとうございました。お二人の代表候補者におかれましては、長い選挙戦、熱い選挙戦の間じゅう力いっぱい戦ってくださいました。本当にありがとうございました。お二人のご健闘により、そして民主党の一同の総力により、大変すばらしい代表選挙が実施できたと思っております。どうかお二人のご健闘をたたえ、会場の皆様、大きな、大きな拍手をお寄せくださいますようお願いいたします。

〔 拍 手 〕

○大石中央選管委員 ありがとうございます。

それでは、代表候補者の皆様は代議員席にお戻りくださいますでしょうか。よろしく願いいたします。

[両候補者降壇]

○大石中央選管委員 これから直接投票の準備を始めます。

[投票準備]

国会議員有権者投開票

○小平中央選管委員長 大変ありがとうございます。それでは、これから衆参両院の皆さんによる直接投票を行います。今投票の準備をしておりますので、少しお待ちください。

この後、投票に向けての説明を津島中央選管委員のほうから行いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○津島恭一中央選管委員 これから国会議員、有権者の投票についてご説明をいたします。

説明の後、議場への出入りを禁止いたします。代議員はもとより、会場内の全員の出入りを禁止いたしますのでご注意をお願いしたいと思います。

また、投票券引換証のない方は投票ができませんので、直ちに受付で代議員証を受け取っていただきたいと思います。

それでは、これから投票方法につきましてご説明をいたします。国会議員の皆さん、投票券引換証はお持ちでしょうか。持っておられない方は投票できませんので、代議員証についておりますので、皆さんの代議員証の中に、一番上が代議員証でございます。その下に決選投票用の投票引換券がございます。そして一番下が投票券引換証でございますので、まず投票のときは一番下のこの引換証を使いますので、ひとつよろしく願いをしたいと思います。

それでは投票は、衆議院議員305名、参議院議員106名の順で、いずれも氏名点呼は五十音順にいたします。

皆様から見て右側の階段から上がっていただき、投票受付で投票券引換証と投票券を交換し、投票してください。なお、投票の流れを円滑にするため、あらかじめ投票券引換証のついていない代議員証をプラチックケースから出してお持ちいただきたいと思います。

なお、投票が終了した方は、向かって左側の階段からおりていただきます。

以上、よろしく願いを申し上げます。

それでは、投票に入ります。投票が終了を確認されるまで議場からの出入りを禁止いたしま

す。よろしいでしょうか。

[議 場 閉 鎖]

[投 票 箱 開 示]

○津島中央選管委員 では、国会議員有権者の氏名を読み上げさせます。

[氏 名 点 呼 ・ 投 票]

○津島中央選管委員 皆さん、投票を締め切りますが、よろしいでしょうか。

それでは、投票を締め切らせていただきます。

なお、今回は不在者投票はありませんでした。ありがとうございました。（拍手）

○小平中央選管委員長 ありがとうございます。それでは、これから開票作業に入ります。議場への出入り禁止を解除いたします。

[議 場 閉 鎖 解 除]

○小平中央選管委員長 それぞれの候補者の開票立会人の方は舞台にお上がりください。開票立会人は、中央選管委員とともに開票過程を確認し、疑問票の処理については中央選挙管理委員に意見を述べることができます。なお、集計は中央選管事務局にお任せをいただきたいと思います。

それでは開票に入りますが、セッティングのために少々時間をいただきます。少々お待ちください。立会人の方は登壇してください。

[立 会 人 登 壇 ・ 開 票]

各有権者投票結果発表

○小平中央選管委員長 大変お待たせいたしました。これより投票結果を中央選管から発表いたします。

まず、郵便投票結果を発表いたします。時間の都合上、党员・サポーター有権者の郵便投票で獲得されたポイントについては、小選挙区ごとの読み上げを省略し、各候補ごとの総数のみを発表させていただきます。なお、小選挙区ごとに各候補者の得票数を記載した集計表を皆様お帰りのときに会場外で配付いたしたいと思います。

予備開票作業は本日未明、午前3時ごろより行い、中央選管委員が分担して立ち会うとともに、地方選管委員の皆様にも開票状況を見ていただき、厳正・公正を期して実施いたしました。

それでは、まず全国の都道府県の党员・サポーター有権者の投票結果についてであります。

党员・サポーター有権者の投票を、その居住地によって全国の小選挙区ごとに集計した結果、

多数を獲得した候補者が小選挙区の1ポイントを獲得いたします。

全国300小選挙区における獲得ポイントを集計した結果、

小沢一郎候補 51ポイント

菅直人候補 249ポイントとなりました。

次に、地方自治体議員有権者の投票結果についてでございます。

地方自治体議員有権者の投票は全国100ポイントをドント方式で配分した結果、

小沢一郎候補 40ポイント

菅直人候補 60ポイントとなりました。

以上の郵便投票に基づく獲得ポイント数を合計すると、

小沢一郎候補 91ポイント。

菅直人候補 309ポイントであります。

続きまして、今ほど行われました国会議員有権者による直接投票の結果を発表いたします。

国会議員有権者の投票は、1人の投票が2ポイントとなります。

国会議員有権者総数は411名、投票総数は409票でありました。

うち有効投票総数は406票、無効票は3票でありました。

投票の結果と獲得ポイント数は、

小沢一郎候補 200票・400ポイント

菅直人候補 206票・412ポイントであります。

以上、合計いたしますと、

小沢一郎候補 491ポイント

菅直人候補 721ポイントとなります。（拍手）

したがいまして、全国の党员・サポーター、地方自治体議員、国会議員の投票により、民主党の新しい代表には菅直人さんが当選したことをご報告いたします。

[拍 手]

○小平中央選管委員長 おめでとうございます。

以上で中央選挙管理委員会としての任務を終了いたします。ご協力まことにありがとうございました。（拍手）

新代表あいさつ

○高木議長 中央選管の皆さん、ご苦労さまでした。

選挙管理委員会からのご報告のとおり、本大会として菅直人さんの当選を確認したいと思いますが、よろしいでしょうか。

[拍 手]

○高木議長 菅直人新代表、当選おめでとうございます。ご登壇いただきまして、新代表としての施政方針は別の機会に述べていただきますが、全国の皆さん方にごあいさつをお願い申し上げます。

[拍手の中、菅直人新代表登壇]

○菅直人新代表 全国の民主党党员・サポーターの皆さん、全国の民主党所属地方議員の皆さん、そしてここにお集まりの民主党国会議員の皆さん、それにも増して全国の国民の皆さんに、皆さんのご支援のおかげで新たな代表に選出をいただいたことを、まずもって心からお礼を申し上げます。どうも皆さん、ありがとうございます。（拍手）

先ほどの最終のお訴えの中でも申し上げましたように、今、日本は本当に困難な中にあります。その日本を元気な日本にもう一度つくり直して、次の世代に渡していく。その仕事を、皆さんのご支持・ご支援をいただいて、本当に命をかけてやらなければと、決意を新たにしたところであります。

また、小沢さんには先輩として、長い間私もいろいろ教えをいただき、今回の選挙でも多くの議論をさせていただきました。

選挙が終わりました。お約束したように、ノーサイド。民主党全員が自分の力をフルに発揮できる。そして挙党態勢で頑張り抜く。そのために全国会議員・全党員のご協力をあらためて心からお願いを申し上げ、私のこの場におけるごあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございます。（拍手）

○高木議長 新代表は、そのまま壇上におとどまりください。両候補者は長い熱い選挙戦を闘い抜かれ、大変お疲れのことと存じますが、ここで両者の栄誉をたたえたいと存じます。小沢一郎候補者の再度のご登壇をお願いいたします。

[拍手の中、小沢一郎候補登壇]

○高木議長 会場の皆さん、両候補者のご健闘をたたえ、お二人の今後のご活躍を期待し、あらためて拍手を送ってください。

[拍 手]

○高木議長 今後とも手を携えて、民主党の発展に向けて引き続きご努力をお願いいたします。

[両候補者かたく握手、拍手]

閉会のあいさつ

○高木議長 ありがとうございます。全国の皆さん、そして会場の皆さん、ごらんいただきましたとおり、皆様のご支援に支えられ、新しい民主党の代表が決定いたしました。今日までの取り組み、そして大会運営に対するご協力に深く感謝いたします。今後ともご支持・ご支援をお願いを申し上げまして、これにて民主党臨時党大会を終了いたします。ありがとうございました。（拍手）

15時44分閉会